

特集

「調子はどう?」「だいじだよ。先生ありがとう。」 ～在宅療養を支える～

病気や怪我で長期療養が必要になった場合でも、住み慣れた環境で在宅生活ができる、「在宅療養」についてご紹介します。



訪問診療の様子

磯政裕医師(黒羽向町)は、日中の診療の合間に、看護師とともに、定期診療のため利用者さんの自宅に出かけています。この日は、地域医療を学ぶ研修医が同行しました。

在宅療養とは

在宅療養とは、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、歯科衛生士、リハビリ専門職などの医療関係者やケアマネジャー、ホームヘルパーなどの介護関係者に自宅などを訪問してもらい住み慣れた環境で医療や介護を受けながら在宅生活を送ることをいいます。

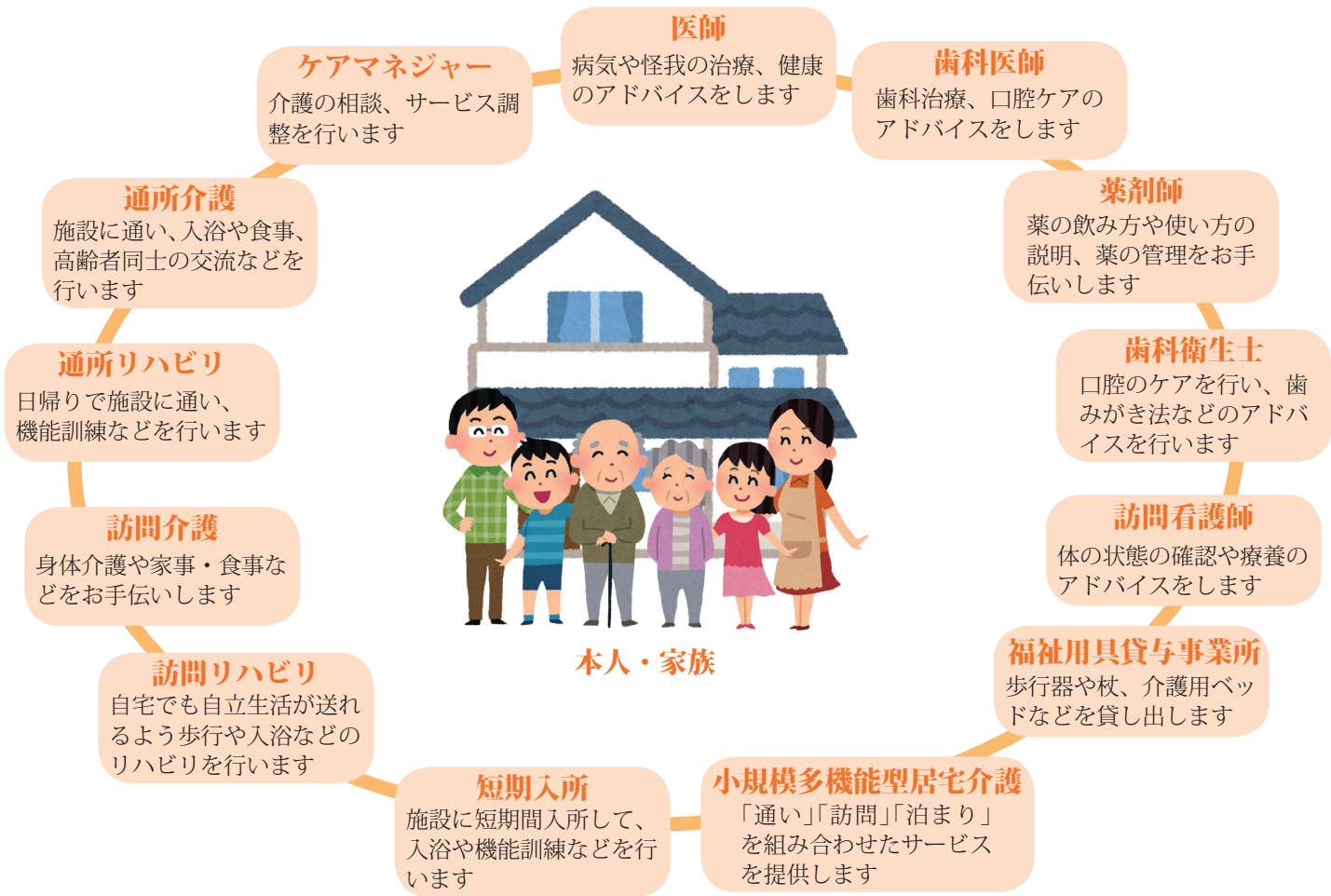
「入院中だけれど家に帰りたい」「通院は難しい」「住み慣れた家で療養したい」「家族と過ごしたい」「自分らしくありたい」「住み慣れた家で使い慣れた生活用品で過ごしたい」そんな思いを実現するのも在宅療養です。

いそ まさひろ 磯 政裕 先生 磯医院(黒羽向町)

現在地(黒羽向町)に磯医院を開業してから私で6代目となります。私は幼少時から医師になるという使命感があったと思います。当院は在宅診療を中心とした在宅専門医ではありませんが、先祖代々往診を行っており、それを引き継ぐ形となりました。寝たきりの患者さんが、往診を重ねるとどんどん回復したり、そこに住み続けることが出来るということにやりがいを感じ、本人や家族から感謝されると嬉しくなります。今後、自宅で最期を迎えたいという方も増えてくると思いますので、訪問診療の必要性を実感しています。しかし、日中は医院での診療がありますので、緊急時にすぐに駆け付けることができない時があります。そのようなときは訪問看護師の協力がとても心強いです。本人の意向に沿った医療や介護を提供していくことで、住み慣れた自宅でいつまでも生活していけるように在宅医療の一員としてかかわっていきたくと思います。

在宅療養を支えるスタッフ

医療と介護のスタッフがサービス担当者会議などで常に連携して、在宅での療養生活を支えています。



サービス担当者会議とは？

サービス担当者会議とは、在宅療養を希望するご本人を支える様々な職種のスタッフが集まり、情報共有やサービス内容の検討のため定期的に開く会議のことです。



サービス担当者会議の様子

在宅医療に取り組まれている医師にお話を伺いました。

ますやま のぶお
増山 伸夫 先生 増山医院(佐良土)

1 なぜ医師になろうと思いましたか？

親が医師で、見ていてやりがいがありそうだったので。

2 在宅医療の魅力はなんですか？

病院医療と違い、医師個人が患者さんや家族から評価されるという面はありますが、通常の診療の続きですね。必要なときに必要なことをする。それだけです。最近は訪問診療とか在宅専門診療所など話題になっていますが、以前からやってきていることですから、特に新しいことをやっているという感じはないです。ただ、以前は訪問看護とかはありませんでしたので、これは助かります。

3 印象に残っている出来事やケースはありますか？

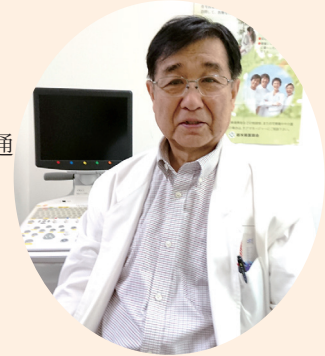
いろいろあります。人生いろいろ、勉強させていただいています。在宅で、多くの家族や知人に囲まれながら看取られていったときには、よかったと思います。

4 気分転換の方法を教えてください。

冗談を言って患者さんをからかいますね。あとは体を動かすかな？美味しいものを食べる、読書、お絵かき・・・

5 在宅医療について思うことは？

家族の意思統一と覚悟が大切です。どうしたいのか、どうしてあげたいのか、皆でよく考え、話し合わないと問題になることもよくあります。また、訪問看護などのサービスの一層の充実が必要だと思います。



ましこ じん
益子 仁 先生 益子クリニック(黒羽田町)

1 なぜ医師になろうと思いましたか？

父の背を追って。

2 在宅医療の魅力はなんですか？

在宅診療は義務と考えています。

3 印象に残っている出来事やケースはありますか？

全患者さんです。

4 気分転換の方法を教えてください。

睡眠。

5 これからの高齢・多死社会についてどのようにお考えですか？

終末時ケアを頂点とする在宅包括支援が重要になると思います。



こばやし のぶひさ
小林 伸久 先生 小林内科外科医院(富士見)

1 なぜ医師になろうと思いましたか？

地元で医師として貢献したいと思ったので。

2 在宅医になったきっかけや理由を教えてください。

在宅医療の必要性を感じていました。開業するなら在宅診療をと考えていました。昔は家で看取るのが当たり前だったし、自然なのかなと思います。

3 在宅医療の魅力はなんですか？

患者様、ご家族様、在宅医療の他職種のスタッフと深く関わられる気がします。いろいろな人と話し合いながらやっていくのが良いところです。在宅医療は、ご本人、ご家族の気持ち優先です。病棟では、医師から看護師に細かい指示が必要でしたが、在宅医療では、一番看ている訪問看護師さんの気づきが大切です。

4 印象に残っている出来事やケースはありますか？

それぞれのケースが印象に残っています。いろいろな家族の在宅医療の形があることに気付きます。

5 気分転換の方法を教えてください。

家族との時間を過ごすことです。

6 在宅医療について思うことは？

地域の皆様に在宅医療の実情について知っていただけるよう努めたいです。



総合病院の退院支援チームの立場から

ふくしま ふみや
福島 史哉 先生 那須赤十字病院(中田原)

1 なぜ医師になろうと思いましたか？

小学生の頃、手塚治虫の漫画「ブラック・ジャック」を読んで、格好良く見えて憧れました。

2 印象に残っている出来事やケースはありますか？

一人一人が印象深いですが、退院後に「畑仕事をした」とか「ペットに会えた」と言って外来で笑顔を見せてくれるとうれしくなります。

3 気分転換の方法を教えてください。

帰りの車の中で音楽を聴くことやオートバイに乗ること(暴走はしませんよ、サーキット走行などをしています)

4 在宅医療について思うことは？

人は誰でも好きなおところに居たいし、住み慣れた環境にいつまでも身を置きたいと考えるのではないかと思います。その思いをより長く支えて行く仕事の一つが在宅医療ではないでしょうか。

われわれ基幹病院(総合病院)の医師は関わった患者さんが医療を必要としなくなることが理想ですが、何らかの医療を継続する必要がある時に、いかにその人らしく生活できるかを一生懸命考えるべきだと思っています。

現在は、各市町が中心となり、我々を含めて、地域の先生方や訪問看護ステーション、ケアマネージャー、地域包括支援センターなどさまざまな職種の人たちが手を取り合って、患者さんやそのご家族をサポートしていく仕組みができつつあります。この仕組みを成長させていく継続的な努力が必要だと日々感じています。



お口の健康と在宅での歯科診療について

たかねざわ えいじ
高根沢 英二 先生 みはら歯科医院(美原)



お口の健康を維持して、美味しく楽しく安全に食事をする事は、健康寿命の伸展につながります。

むし歯や歯周病を放置しておく、糖尿病、心臓病、肺炎、骨粗しょう症といった全身の病気に影響を及ぼしたりします。また、多数歯の喪失状態が長く続くと、認知症の進行や免疫力低下の可能性もあると指摘されています。

治療はもちろんですが、予防の意味でもかかりつけ歯科医を持ち、定期的を受診しましょう。

また、要介護状態が重くなっても、お口のケアをすることで、誤嚥性肺炎(※)や口腔乾燥の予防、口臭の減少などが期待でき、その結果、病状が軽減したり、コミュニケーションが活発になり、気力が湧くといった例もあります。

自分の口で食べることは、人として生きていく源です。

私達、歯科医師、歯科衛生士は要望があれば訪問し、可能な範囲でそのお手伝いをしていきたいと思っています。そこで、歯科医師会では、在宅で歯科診療を受けたい方の相談窓口を開設しています。

※ 誤嚥性肺炎

食べ物や細菌などに汚染された液をうまく飲み込むことができずに肺に入ってしまう、肺炎を起こしてしまうこと。特に70歳以上の高齢者では、注意が必要です。

「とちぎ在宅歯科医療連携室」 受付時間：月曜日～金曜日 10：00～16：00
電話・FAX：028-648-0750 メール：zaitakushika@tochigi-da.or.jp



栃木県歯科衛生士会
ふなやま ゆりこ
船山 由利子 氏(歯科衛生士)

大田原市地域包括支援センター

高齢者の皆さんが住み慣れた地域で安心して暮らしていただけるように、介護、福祉、健康、医療など、多方面から高齢者やその家族を支えています。高齢者の方、ご家族、地域住民などから受けたいろいろな相談などを、関係機関と連携して解決に努めています。

名称	担当地区(※)	電話番号
大田原市中央地域包括支援センター (大田原保健センター内)	大田原、紫塚、金田	TEL(20)1001
大田原市西部地域包括支援センター (大田原市福祉センター内)	西原、親園、野崎、佐久山	TEL(20)2710
大田原市東部地域包括支援センター (黒羽庁舎北側)	湯津上、黒羽、川西、両郷、須賀川	TEL(53)1880

●開所日時：月～金 8：30～17：15(土日祝日及び12/29～1/3を除く)

※担当地区については日常生活圏域で区分しています。詳しくは TEL(23) 8757 までお問い合わせください。

訪問看護ステーション

医師の指示のもと、病気やケガの看護や療養のアドバイスをします。

名称	担当地区	電話番号
とちぎ訪問看護ステーションくろばね	大田原市黒羽向町 142	TEL(54)0507
さくら訪問看護ステーション	大田原市下石上 1452	TEL(29)3252
訪問看護ステーション大那	大田原市紫塚 3-2633-10	TEL(20)3102
那須赤十字訪問看護ステーション	大田原市中田原 1081-4	TEL(23)8866
訪問看護ステーションゆりの木	大田原市山の手 1-1-7	TEL(47)5123

那須地区在宅医療・介護連携支援センター

医療や介護に携わる人からの相談窓口となるために、黒磯保険センター3階に「那須地区在宅医療・介護連携支援センター」が開所されました。地域の医療・介護に関する必要な情報の把握や相談支援を行ない、関係機関と連携をとり在宅医療・介護連携の推進を図ります。このセンターは市と那須塩原市、那須町2市1町で共同で設置し、運営いたします。

※高齢者の方、ご家族や地域住民の方からの相談窓口としては「地域包括支援センター」となりますが、医療や介護に携わる関係者のための支援拠点が「那須地区在宅医療・介護連携支援センター」となり、各関係機関、医療関係、介護関係の連絡調整を担う場となります。



那須地区在宅医療・介護連携支援センター
開所式の様子

大田原市地域包括ケアを考える会(おたわらの会)

医療・介護サービス提供者が現場レベルで「顔の見える関係」を構築し、必要なサービスが受けられること、また、サービスを向上させるために、月に一度、在宅医療に携わる医療・福祉関係者が集い、話し合いを開催しています。互いの事情を理解し、互いの顔の見える関係が日々の業務に活かされてより質の高いサービスを提供することにつながっています。

